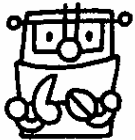


## アンタレスは、なぜ赤い色をしているの



温度が低い星だからさ。白っぽい色の星ほど、温度が高い星なのさ。

空に見える星のほとんどは、じつは、太陽と同じように巨大なガスのかたまりです。そして、星の中心で起きている水素爆弾すいそばくだんと同じようなしくみでできるエネルギーで、光や熱を出しています（これをこう星という）。

こう星の光の色は表面の温度によってちがっていて、赤く見えるのは、2000～3500 ぐらい、温度が上がるにつれて、オレンジ色、黄色、白色、青白色と色が変わっていきます。そのため、燃えている星の表面の温度によって、星の色がちがって見えるわけです。さそり座さそりのアンタレスは、表面温度が低くて約3000 ぐらいなので、赤く見えるのです。黄色に見える太陽の表面温度は約6000、青白色に見えること座のベガは、約9000 です。

この温度による光の色のちがいで、温度をはかる色温度計というものがあり、鉄をとかす工場などで、赤くとけた鉄の温度などを調べるのに使われています。

### わく星は、太陽の光を反射して光っている

地球のように太陽の周りを回っている、金星、火星、木星、土星などは、太陽の光を反射して光って見える星です（これらは、わく星という）。地球も、金星や火星から見れば、太陽の光を反射して光る星に見えます。

火星が赤く見るのは、表面の土の色が赤いためです。地球が宇宙うちゅうから見ると青く見えるのは、地球のまわりをとりまく空気や広い海の水などが、太陽の光の中の、青色の光を多く散らすためです。金星が金色にかがやいて見えるのは、厚い二酸化炭素でんの層がまわりをとりまいているため、日光をよく反射するからです。

